

6歳の女の子、4歳の男の子、1歳の女の子の母親です。奥州市の子育ての目玉である「第3子以降の保育料の無料化」。旧胆沢町で行っていた制度を新市で引き継いだようですが、まさに合併効果といえるとてもいい制度だと思います。驚いたのは、保育園では給食にかかる料金も無料になること。3番目の娘は来年1月から保育園にお世話になりますが、この制度が適用されるのでとてもうれしく思っています。周辺市町村では、このような制度はなく、ママ友達からうらやましがられます。奥州市民であることの喜びを感じさせる制度の1つといえますね。

子育てをしている者として、もったこうあってほしいという希望もあります。その1つに、子どもの遊び場の問題があります。奥州市には公園など、子どもを安心安全に遊ばせる場所が少ないように思います。そのような場所に行くためには、わざわざ車を使わなければなりません。

親の環境も整え 出生率全国一に



ん。子育ては毎日のこと。歩いて行ける“ちょっと寄れる”ような公園がきちんと整備されていれば、もっと子どもを伸び伸び育てられるように思います。またその場所は“子育て”という同じ環境にあるわたしたち母親の交流の場にもなります。家の中だけの孤立した子育てにならず、悩みなどを相談し合うことが大切です。

とで少しでも子育ての負担の軽減・ストレス解消にも役立つのではないのでしょうか。少子化が進む世の中ですが、市にはこれからますます充実した子育て政策を立てていただき、奥州市が「全国一の出生率」になればいいなと思っています。子育て環境ナンバーワンの奥州市。がんばれ！

及川 佳奈子さん
【衣川区・30歳】

わたしはこう思う

住民負担は——子育て環境は——

佐藤 康悦さん
【胆沢区・43歳】

合併してまず言えることは、市に納める金銭的な負担が増えたということです。合併前の旧5市町村では、特に力を入れていたサービスマネジメントや税金の金額などに違いがありました。これは、それぞれの地区の地域性から当然のことですが、奥州市という同じ市になり「合併後3年をめぐりに統一」という決まりごとの

下、徐々に均一化・統一化が進められています。この統一で旧町村部では負担が減るものではなく、増えるものばかりのように感じます。特にわたしが住む胆沢区では、水道料金の負担割合が大幅に増え、一世帯平均で約50%増になりました。また、国保税も来年4月から統一され、税額が上がります。

しかしわたし自身、負担が増えることに対して「絶対反対」ではありません。水道料金は、旧胆沢町の料金が安かったというところもあり、当時から値上げの動きがありました。負担が増えないに越したことはないのですが、奥州市という大きなまちになったことや、各自治区とのバランスを考えれば、ある程度の負担増は仕方がないと思っています。ただ1つだけ納得がいかないのは、知らないうちに間接的に住民の負担が増えていくことです。教育費削減により、幼稚園・小中学校の教育活動に対する親の負担が少しずつ増えているように感じます。雇用不安定が続く中、教育費といえども出費が増えるのは大変です。地域の財産である子どもたちを豊かに育てていくためには行政の力強い支援が必要です。奥州市が、少しでも早く財政的に足腰の強いまちになり「サービスは手厚く負担は軽く」という住民本位の市政運営ができるようになることを望みます。



財政の足腰鍛え 市民負担抑制を